

日本共産党 西宮市議会議員



佐藤みち子

活動だより 2023年3月

議員団控室 Tel0798 - 35-3368 fax22-7815
自宅 高須町1丁目 1-7-5-206 Tel42-2856



3月議会一般質問



3月2日、日本共産党西宮市会議員団を代表して、私、佐藤みち子が一般質問を行いました。早いもので、任期4年、最後の質問です。今回は「国民健康保険料の子どもの均等割免除」「加齢性難聴の補聴器購入助成制度」「学校のトイレに生理用品の設置について」です。

国保

18歳以下の子どもの「均等割」免除せよ

国民健康保険には他の保険にはない「均等割」の制度があります。これは家族の人数にかかるもので、子どもの数が多いほど「均等割額」が増え保険料が高騰します。そこで、2010年代後半から子どもの「均等割」を免除する自治体の取り組みが始まり、自公政権は2022年度から未就学児の「均等割」を半額免除しました。しかし、小中高校生には何の恩恵もありません。

加西市では、子育て支援として、18歳以下の子どもの均等割を市独自で免除しています。本市でも「子育て支援として実施するよう」求めました。市は、「県が保険料の統一を進めている中で、新たな減免制度の実施は困難」と答弁。免除に必要なお金は、約1億5000万円です。引き続き、実現のため取り組んでいきます。

年収400万円 30代夫婦（妻無職）小学生2人 4人世帯

均等割 減免前	子ども均等割免除額	免除後保険料
41万3,844円	8万3,040円	33万804円

子どもの均等割額は、一人41,520円です。

※子どもの均等割額が免除になれば、年間8万円の保険料削減になります。

補聴器購入に助成制度があれば

研究から、加齢による難聴が認知症を発症することが分かってきました。難聴に有効なのが補聴器。助成制度があれば購入しやすくなります。

加齢性難聴は、自分自身で気が付きにくいので、健康診査での「聴力検査」やつどい場などで行っている「フレイルチェック」の項目に「聞こえ」を入れることで、周囲の人からの気づきにつながります。

市は、「聴力検査は財源確保の観点から困難」と答弁。しかし、つどい場やいきいき体操などで、実施している「フレイルチェック」に、高齢者の難聴に関する項目を追加すると、前向きな答弁。

しかし、補聴器購入助成制度については、「国に制度の創設を要望する」とのことです。市はやる気がありません。今後もこの問題も引き続き取り組みたいと思います。

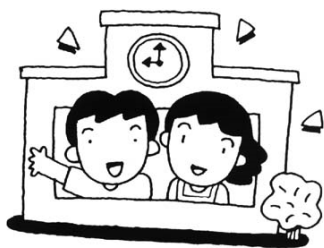


学校のトイレに生理用品が設置されることに

明石市や加古川市では、小中学校のトイレに生理用品を設置しています。加古川市は、「保健室での配布は今後も続けるが、多様な配慮のあり方として、トイレに設置することで、困っていても言い出せない子どもの支援につなげたい」と、柔軟な対応をしています。

この度、県が2022年度2月補正予算に、生理用品関連の予算2600万円を計上。県の担当者は「生理用品が手に入らず困っている学生も多い。必要な支援を広げたい」と、県立高校や希望する大学や短大、専修学校、私立の小中高校にも拡大します。

本市でも「防災備蓄品を活用し市立高校のトイレの1カ所以上に設置することを検討したいと考えている。また、市立小中学校は、高校の使用状況を把握し、具体的な設置場所や方法などを、生徒の声も聴きながら、よりよい運用となるよう整理し検討する」と答弁がありました。



「突然、生理になった!」「持ってくるの忘れた!」など、色んなことがあります。そんな時、トイレに生理用品があると安心です。私、佐藤みち子は、どの子どもも安心して学校生活を送れることを願ってやみません。